

Catasetinae

「カタセタム類の 自生地とその栽培」

カタセタム 類はメキシコから南米にかけて広く分布する着生ランです。初めてこのランの野生状態を見たのは 1992 年でした。グアテマラの有名なティカル遺跡を訪れたときです。中央神殿の広場に生えていた椰子の幹にべたっとへばりついているのを見つけました。不思議なことにつるつるの椰子の幹に着生しています。この時はなぜこんなところに着生できるのか疑問を抱えながらの帰国でした。1994 年にはベネズエラのオリノコ川沿いでカトレア・ピオラセアを探していました。そのときに上陸した岩の上で直射日光に当たりながらカタセタムが生育し花をつけていました。手で触れないほど熱せられた岩の上でどうやって生きていくのか非常に不思議に思ったものです。次のカタセタム類との出会いは 1996 年のベネズエラ・カナイマ国立公園です。川沿いを船で進んでいると椰子の樹冠の古い葉の付け根が重なり合ったところにクロウエシアと思われる株を見つけました。これで 4 年前の謎は解決です。おそらく風にのり飛んできたカタセタムの種子は樹冠の葉の付け根部分に付着して発芽し、その後葉が落ちて幹だけになるときにうまく幹にピッタリと着生するのであるとの推測が出来たのです。そしてこの推測は 1997 年にブラジル・ Rondônia 州を訪れたときに確実なものとなりました。草原に生える大きな椰子の木に無数のシクノチェスが着生していたのです。葉の茂る樹冠に生える株から葉の落ちた幹に着生する株までが一度に見られたのです。そしてよく見ていると蜂が飛んできておそらく受粉している（蜂にそんな気はないでしょうが）様子までが見られたのです。

最後にカタセタムを見たのは 2010 年、ブラジル・ベルナンブコ州でのことです。ここでも椰子の樹冠に大きな株の着生が見られました。しかもバニラまで一緒に着生していたのは驚きです。

これらの自生地訪問から推測できることは、カタセタム類は非常に暑く日差しが強いところが好きである、そして雨季乾季のはっきりする地方が多く、雨期には雨がタップリと降る、どうも椰子の木に好んで着生するらしいということです。栽培のヒントがたくさんありますね。

栽培：カタセタム類の交配種はカタセタム属、クロウエシア属、モルモーデス属、シクノチェス属などが複雑に交雑して非常におもしろい花型と色彩を作り出しています。2 年ほど前から人気の出ている香りのよい黒いラン (Fdk.After Dark) もこの仲間です。性質は非常に丈夫で、株の状態は春から秋までの生育期と、冬の休眠期にはっきりと分かれます。生育期は蒸し暑い気候を好み、休眠期は乾燥した低温で過ごせます。日本の気候にぴったりのランとも言えます。日当たりはカトレアと同じで大丈夫です。生育期には十分な水と肥料を与え新芽を大きく伸ばしバルブの形成をはかります。冬の休眠期を迎えると落葉しバルブだけになります。休眠期はバルブが痩せない程度の最小限の水を与えます。開花は品種により異なりますが、多くは休眠期の終わり頃になります。花芽が伸び始めたら少し水を増やすと良いでしょう。

生育期には水と肥料を好むランですから基本的に水苔+ブラ鉢植えをおすすめします。植え替えは春の新芽が出る頃が最適で、葉を広げ始めてからでは遅すぎです。暑さにも寒さにも適応できるおもしろいラン。ぜひこの奇妙な形をしたランを咲かせてみませんか？ (江尻宗一)



グアテマラ・ティカル遺跡で椰子に着生するカタセタム



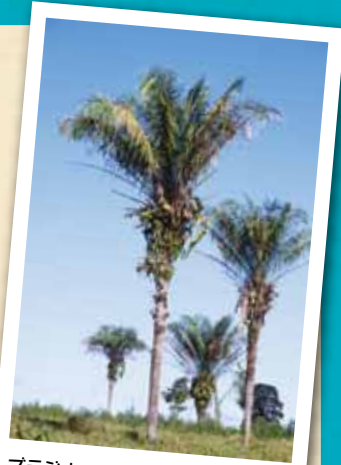
ベネズエラ・カナイマ国立公園でのクロウエシア



ベネズエラ・オリノコ川近くで岩の上に生育するカタセタム



ベネズエラ・オリノコ川近くで開花するカタセタム



ブラジル・ Rondônia 州に生える椰子の木



ブラジル・ Rondônia 州で椰子に着生するシクノチェス



ブラジル・ Rondônia 州で花に飛び込む蜂



ブラジル・ベルナンブコ州で椰子の樹冠に着生するカタセタムとバニラ